



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

鶴丸イ言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

「やってみる」という選択

理科 江口智

高校時代は「帰宅部」だった自分にとつて、部活動というものは全く縁のないものであった。友人たちは楽しくも厳しい練習に励み、青春を謳歌しているようにも思われた。彼らの姿を、多少なりともうらやましく感じることもあった。教員になり、部活動を指導する立場になり、初任校で初めて顧問を引き受けたのが陸上部であった。顧問を中心に、指宿や加世田に赴き、試走や大会の引率を行った。次の年に、山岳部の顧問も引き受けてくれたという話があった。中学時代は吹奏楽部であり、登山の経験は小学校の遠足くらいしかない自分にとって、生徒と同じ登山コースを歩き、テント泊をするなど、全く畑違いな領域であり、不安しかなかったが、当時の山岳部の生徒たちの強い勧誘もあり、引き受けることとなった。

初めて引率した五月の県総体の会場は屋久島であった。九州最高峰の宮之浦岳を縦走するコースで、雨の中、生徒と同じコースを重いザックを背負って歩いたのを今でも覚えている。地図上では確認しているが、当然登ったことにはないため、どれだけ歩けば目的地にたどり着くのか全く分からないまま、生徒の後ろを遅れながらも何とか歩き続けた三日間であった。一月に開催されていた当時の新人大会では、雪が一晩で50cm近く積もり、帰り道が通行止めになったため、迎えるバスが会場まで来ることができず、バスが入れる所まで二時間以上かけて雪の中を生徒と歩いて帰ったこともあった。転勤後は、バスケットボール部、ソフトテニス部と様々な部活動の顧問を務めたが、七年前に本校に赴任したとき、再び山岳部の顧問をすることとなった。初めて顧問を引き受けたときと比べると、年齢や体型など不安も多かったが、前回よりは気楽に引き受けることができた。この時も、最初の県総体は屋久島での開催で、それ以降、合宿や大会で計一〇回ほど宮之浦岳に登頂させてもらった。生徒の時

には全く縁のなかったインターハイにも参加する機会を得た。青森の八甲田山や岩木山、自分の住む山、神奈川の箱根山など、自分だけでは決して行くことのできない山々を、全国大会という雰囲気の中で生徒とともに歩く貴重な経験をすることができた。

このような経験をすることができたのは、私が教員になるときに掲げた目標の一つである「とりあえずやってみる」ことを実践したからだと考えている。学生時代の私は、どちらかというと面倒なことは避ける傾向が強く、そのため、できたであろう多くの経験をjする機会を自ら放棄してきたのではないかと今でも少し後悔している。もし、初任校で山岳部の顧問を断っていたら、今回の赴任で再び山岳部の顧問をすることはなく、全国大会に出場するような貴重な経験をすることもなかったと考えられる。だから君たちには、迷ったら「とりあえずやってみる」ことを勧めたい。高い目標に対し、「無理だ」とか「やったことがないから」といった理由で「やらない」という選択をして折角の機会を逃すのは、非常にもったいないことだと思っている。やらなければ可能性は0になる。教員生活も折り返し点を過ぎた私でも、まだまだ多くのことに挑戦したいと考えている。これからの人生のほうが長い君たちには、何事においても、まず「やってみる」という選択をすることで、いろいろな可能性に挑戦して欲しいと、私は期待している。

GO鶴セミナーから見えてくるもの

二学年主任 大倉秀心

七月十二日から十四日まで、二泊三日の日程で二年生の修学旅行が無事終了した。参加者全員が元気な姿で鹿児島まで戻って来られたことに安堵した。私自身、本校で修学旅行に参加するのは今回が初めてで、準備段階から旅



の事業所に受け入れていただいた。毎年このセミナーを楽しみにしていただいている先輩もいらつしやるし、今年度新たに受け入れていただいた先輩もいる。つくづく幸せな学校だと思った。

特に文系が搭乗した往路の飛行機では、翌日のGO鶴セミナーで対応して下さる機長の花園さんとチーフCAの三輪さんが、わざわざフライトを合わせて下さった。花園さんは我々鶴丸生向けに機内アナウンスをして下さり、「私が学生の時は修学旅行はごさいませんでしたが、先輩が操縦する飛行機で修学旅行をさせてもらっている自分たちが如何に幸せかを感じた。降機の際には、今度は三輪さんが「帰らざる三年を大切に生きて欲しい」という内容のメッセージを下さった。こんなエピソードだけでも先輩達の熱い思いが伝わり、これだけでも立派なGO鶴セミナーのような気がした。

このGO鶴セミナーは、生徒が大きな恩恵を受けるだけでなく、担当して下さる先輩方にも元気を与えるものだと初めて知った。空想科学研究所の柳田理科雄さんが発行する図書館通信を紹介したい。「僕の母校の高校では、東京への修学旅行の一環で、卒業生の職場を訪ねるイベントがある。今年も十二人が来てくれた。毎

行全体のイメージをつかむことができず、不安ばかりが募っていたのだ。そんな中で最も印象に残ったのは、やはり本校OB・OGの職場訪問「GO鶴セミナー」だろう。今年四十六カ所学生のインターシップなどは若で当たり前のように行われているが、本校のGO鶴セミナーは、その意味合いがずいぶん違うようだ。職業や世の中を知るだけでなく、先輩と後輩が鶴丸という場所を通じて、どのように気持ちを通じ合わせられるかを実感できる、他では真似のできない貴重な行事であるのだと痛感した。そういう意味では、本校にとって「一人」は「先輩方」は有り難い財産なのである。

GO鶴セミナーに関しては、ほぼ全員の生徒諸君が様々な形で刺激を受け、高い満足度を示していた。何年後になるかは分からないが、今度は君たちが後輩達に思いを伝えるときが来るだろう。その時にどんな対応をする大人になっていくかは、これらの君たちの経験で変わってくる。修学旅行を機に新たな気持ちで高校生活の後半に入ってくることを期待している。



復路、鹿児島空港から学校へ向かうバスの車内で、私が同乗したルームの生徒達は、担任の指導の下、帰宅後スーツケースは自分で片付けることと親への感謝を確認していた。そして、同乗していた旅行業者の方や私に対しても感謝の意を込めて拍手を送ってくれた。柳田さん同様、これまでの苦労と疲れが吹っ飛んだ瞬間だった。「一人」が育ち始めていることが何より嬉しかった。

猛暑に涼やかな音楽の贈り物

第四〇回記念定期演奏会

猛暑が続く八月十七日、「温故知新」のテーマの下、第四〇回記念の定期演奏会が県文化センター宝山ホールで開催されました。夏期休業期間を終えて前日の後半がスタートした日の午後、午前中の授業を終えた生徒達は会場へ移動し、午後二時の開演を待ちます。

この定期演奏会に向けて入念な準備とリハーサルを重ねてきた音楽部・吹奏楽部、そして両部OB・OGの皆さんが、趣向を凝らしたステージで聴衆を魅了します。コンクール曲に加え、アニメやポップス、さらにダンスを取り入れたステージに、生徒や保護者、一般の方々も楽しんで下さったようです。

第二部の音楽部卒業生ステージでは、昭和五十四年度県合唱コンクールの自由曲として取り上げ、県知事賞を受賞した「島よ」が披露されました。また、フィナーレでは「ハレルヤ」コーラスとkieroの「未来へ」で会場が一体となり、盛況のうちに幕を下ろしました。



部活動生の活躍

文武一道に励む部活動生達が、全国でも活躍しています。

〔百人一首部〕

○第三九回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会

・個人戦 C級優勝 尾辻 菜々子

・個人戦 C級3位 宮田 茉奈

・個人戦 D級3位 速見 雅史

・個人戦 上妻 知佳

○第四一回全国高等学校総合文化祭

・自然科学部門 研究発表化学部門 優秀賞